



4田工高第1713号

令和5年3月28日

令和4年度 東京都立田無工業高等学校
学校経営報告

東京都立田無工業高等学校
校長 岡谷 典幸

1 令和4年度学校経営計画の実施状況（概要）

本校は、東京都教育委員会による Next Kogyo START Project による工業高校改革に向けた様々な施策の推進およびデュアルシステム導入校・学力向上研究校の指定を受け、活動内容の充実と実施体制の整備を図るとともに、以下の項目毎に活動内容を設定し学校経営を行った。

- (1) 様々な経験を積ませることで役に立つ一人前の人間に育て上げ、社会人としての資質と規範意識を育む。
- (2) 基礎的・基本的な学力を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据え努力する社会人を育成する。
- (3) 心身における健康維持の重要性を理解し、適切に自らの健康管理ができる社会人を育成する。
- (4) 工業に関する知識や技能・技術を身に付けさせるとともに、専門性を有し社会に貢献する技術者を育成する。特に課題解決型学習（PBL）推進については地域や企業との連携を模索しながら取り組みを進める。
- (5) 工業教育の充実を図り、工業技術者の裾野を広げる。デュアルシステム就業訓練の派遣にあたっては、コロナ禍の状況を踏まえつつ生徒の希望とのマッチングを図り、参加率向上を目指す。

2 今年度の取組と自己評価

昨年度と比べて新型コロナウイルス感染症による教育活動への影響は限定的となり概ね計画通りの教育活動を行うことができた。一方で時差登校や徹底した黙食指導等、感染症への対策は継続して行われてコロナ禍における取組を推進することができた。

(1) 教育活動への取組と自己評価

取組目標	具体的取組(方策・目標)	成果と課題
学校経営組織体制の充実	①公開講座、施設開放、出前授業などにより教育機能を広く公開し都民サービスに貢献する。 ②関係機関及び地域と連携したボランティア活動の取り組みを一層充実させ、社会貢献と豊かな心を育む。 ③「生徒による授業評価」による校内研修の実施、教職員の相互の授業観察を促進するなどして指導方法や指導内容の工夫・改善、指導計画の見直しを図り、授業力向上に努める。 ④学校経営計画の実現に向け、企画調整会議、主幹会議、職員会議、各種委員会の運営を促進する。 ⑤個人情報の安全管理に関する基準を遵守し、個人情報の保護・管理を徹底する。 ⑥保健相談部、特別支援コーディネーターを中心に関係機関と連携し、組織的な特別支援教育	① 公開講座・施設開放は予定通り実施することができた。出前授業も中学校の要請に応じて対応できた。 ② 「わくわくどきどき夏休み工作教室」は3年ぶりに開催。地域連携として柳沢あしたば会のラグビー教室や防災活動での交流を行った。 ③ ICT機器を活用した授業評価を実施し、詳細の分析結果を基に授業改善への取り組みを行った。また観点別評価に関する検討を進め5段階評価との関連について理解を深めた。 ④ 各会議の定例開催を実施し組織的な運営に取り組んだ。 ⑤ 日常的な注意喚起の継続および校内研修会を開催し、事例研究等を通じて個人情報の

	<p>を推進する。</p> <p>⑦ものづくりを通じた障害者・高齢者への理解教育を推進する。</p>	<p>保護。管理に取り組んだ。</p> <p>⑥ 情報共有会を年間5回開催し、SCの助言を受けながら対応にあたった。</p> <p>⑦ 田無特別支援学校へ腐葉土コンテナの提供を行った。 【B】</p>
学習指導の充実	<p>①各教科は、年間授業計画の確実な実施に向け、週ごとの指導計画を作成して生徒理解度を把握し、適切な対応を行う。</p> <p>②授業規律を確立し、わかり易く・丁寧な授業を行い、基礎・基本を確実に身に付けさせる。</p> <p>③日々の授業において、定期テスト・小テスト・提出物を計画的に実施し、生徒の学習状況を把握するとともに、組織的指導を行う。</p> <p>④「生徒による授業評価」や校内研修の実施、教員相互授業観察を促進するなど、指導方法の工夫や改善を図り授業力向上を図る。</p> <p>⑤教員の授業力を高め、デジタル技術を活用した教育の推進に取り組む</p> <p>⑥田無工業高校技能スタンダードを通して、本校で身に付けさせる専門性と学習段階を明確にし、組織的な指導を展開する。</p> <p>⑦グローバル社会に対応した人材の育成のため東京グローバル・ゲートウェイなどを活用し、英語教育の充実を図る。</p> <p>⑧学習意欲の向上をさらに図るために、資格取得・検定合格・コンクール入賞などに向けた指導を充実させる。</p> <p>⑨基礎体力の向上を図るとともに、東京都統一「体力テスト」を実施する。</p> <p>⑩読書活動を推進し、生徒の未読率の低減を図る。</p> <p>⑪学力向上推進校としての対応を図る。</p> <p>⑫ものづくりを通じた障害者・高齢者への理解教育を教育課程に位置づけ、推進する。</p>	<p>① 各教科は指導計画に基づき授業を実施し、取組状況から生徒の理解度を把握。必要に応じ課題や補習・補講を実施した。</p> <p>② 授業規律週間を学期毎に設け、授業に集中できる環境づくりに取り組んだ、また習熟度別授業等により、生徒の学力に応じたわかりやすく丁寧な授業を実践した。</p> <p>③ 年間を通じた学習状況把握で組織的な指導に取り組みで成果をあげたが、成績不良により進級できない生徒1名となった。</p> <p>④ 生徒による授業評価はTeamsを活用して実施し細かな分析も行き、授業者へのフィードバックを行い授業改善に繋げた。</p> <p>⑤ 教員全体のICT活用能力推進に取り組み、オンライン授業日では双方向のオンライン授業を実施した。</p> <p>⑥ 技能スタンダードを実施し、生徒の専門科目に対する理解度を把握することができ、授業改善に取り組んだ。</p> <p>⑦ 東京グローバル・ゲートウェイを活用した授業は3学年英語選択者を対象に実施した</p> <p>⑧ 長期休業期間中に実施した特別講習の参加者は過去最多となった。</p> <p>⑨ 体力テストは感染症対策を行いながら実施した。</p> <p>⑩ 課題図書の設定や図書館報発行など未読率の減少に取り組んだが、図書館利用においては学級により偏りが見られた。</p> <p>⑪ 外部人材を活用し、学力不振者への働きかけは保護者の協力を得ながら取り組んだ。</p> <p>⑫ 田無特別支援学校への腐葉土倉庫提供やコースデー作り等、ものづくりを通じた連携を継続できた。 【B】</p>
生活指導の充実	<p>①身だしなみ（髪型・服装）指導や全体集会・学年集会などを実施し、地域から信頼される態度・行動・言動ができるよう指導する。</p> <p>②学級担任を中心として生徒の実態を適切に把握し相談活動を行い、生活環境を整える。</p> <p>③いじめや暴力を許さない環境を作る。</p> <p>④教職員自ら挨拶を行い、明るく楽しい学校の雰囲気づくりに努め、生徒の健全育成及び欠席・遅刻・早退の減少に取り組む</p> <p>⑤「ものづくり人材育成プログラム推進校」として、講演会・講習会をとおしてものづくり人材の育成を推進する。</p>	<p>① 授業規律週間を学期に1回実施し、生徒の学習態度の改善に取り組んだが、指導に従えない生徒の対応に苦慮した。</p> <p>② 特別支援教育コーディネーターの情報交換会の情報を活用しSCとの連携を図ったが、不登校傾向の生徒の状況改善には至らなかった。</p> <p>③ いじめのアンケート調査（年3回）や聞き取り調査を実施し、指導の徹底を図ることで、再発防止してきた。</p> <p>④ 生徒の基本的な生活習慣の乱れや起立性障害の生徒の増加により、目標値を達成できなかった。</p> <p>⑤ ものづくり立志事業や特定分野推進校の取組みによりキャリア教育推進やものづくり</p>

		人材育成に取り組むことができた 【C】
進路指導の充実と キャリア教育の推 進	<p>①キャリア教育の全体計画に基づき、生徒の実態に応じたきめ細かな進路相談・進路指導を行い、生徒の進路希望の実現を達成する。</p> <p>②地域の関係する諸団体や地元企業と連携し、デュアルシステムの充実を図る。また、デュアルシステムの参加者をさらに増やし、望ましい勤労観・職業観を育み、自らが進路選択できる力を身に付けさせる。</p> <p>③コミュニケーション能力の伸長を図り、社会人としての資質を育て、進路実現につなげる。</p> <p>④進路実現を支援するために、指導・補習などを組織的・計画的に行い、第一志望の大学・企業等へ導く。</p>	<p>① 就職希望者は3月末時点で希望者全員が進路決定した。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、デュアルシステムⅠ期で72名、Ⅱ期で50名、Ⅲ期で39名が参加し、コロナ前の状況に戻りつつある。</p> <p>③ 進路講演会等の取組は計画とおりに実施することができた。よって、生徒の進路意識の向上につなげることができた。</p> <p>④ 学級担任・進路指導部・学科の協力により進路実現のための指導を実施した。専門学校進学希望者の中で、家庭との連携が充分でない状況が見られた。</p> <p style="text-align: right;">【C】</p>
健康・安全 特別支援教育 の推進	<p>①学級担任・教科担当・養護教諭は互いに連携し、SCを活用して、教育相談活動を充実させる。</p> <p>②学校保健計画に基づく学校保健の取り組み、保健相談部を中心として、心身の健康及び体力保持増進について自ら考え行動できる力の育成を目指し、安心できる学校生活及び事故防止、健康的な生活習慣の確保を図る。</p> <p>③安全教育・防災教育の充実と突発的な事故や救急対応発生時の校内体制の確立を図る。</p> <p>④教科「人間と社会」では、防災技術講習会等を実施し、地域防災の担い手としての意識を育む。</p>	<p>① 担任・教科担当・養護教諭・SC・心理士との連携や教育相談活動は充実し特別支援教育や生徒の心身の健康維持を図れた。</p> <p>② 健康教室等、学校保健の取組を計画通りに実施し、安心できる学校環境づくりに取り組んだが、新型コロナウイルスの影響による変則的な分散登校や時差登校等で生活習慣が整わず遅刻や欠席の多い生徒も出てしまった。</p> <p>③ 突発的な事故や救急対応については校内体制が整い適切に対応できた。</p> <p>④ 水道局との連携で災害時の給水所体験を実施した。【B】</p>
防災教育 の推進	<p>① 1学年全員が上級救命士資格を取得できるよう講習会を開催する。</p> <p>② 地域の防災訓練等への参加</p> <p>③ 校内の防災活動の充実</p>	<p>① 田無消防署協力で、1学年全員に上級救命救急講習を受講させた。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症の影響により地域の避難所設営の防災活動は中止となった。</p> <p>③ 年4回の避難訓練を実施した</p> <p style="text-align: right;">【C】</p>
募集・広報活動・ の充実	<p>①学校説明会、学校見学会、一日体験授業、部活動体験、年間を通じた授業見学などにより、本校の特色ある教育活動を校外に周知する広報活動を推進する。</p> <p>②ホームページの更新やSNSによる配信を活用し、生徒の活動状況を積極的に情報配信し、生徒・保護者・地域へ提供する。</p> <p>③全教職員による中学校訪問及び広報活動を行い、本校の特色や期待する生徒像を広く都民にアピールし応募を促進する。</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限はあったが、代替のミニ見学会やさんだる相談会参加などを行い広報活動の充実に取り組んだ。</p> <p>② ホームページは全面リニューアルを年度内に実施した。Teamsの活用は進んだが、保護者連絡のさくら連絡網の活用は学年によっては充分でなかった。</p> <p>③ 中学校訪問や地域連携等で本校の特色のアピールを実施したが、進学志向の強まりから生徒募集で結果を出すことができなかった。 【C】</p>

特別活動等の充実	<p>①全体集会、学年集会、ホームルーム活動をと おして、帰属意識を高めるとともに、集団生活 への適応を図る。</p> <p>②学校行事、ホームルーム活動、委員会活動を通 して、自主性・協調性を養わせる。</p> <p>③部活動への参加率を高め、公式試合などを通 して積極的に挑戦する気持ち、達成感を持たせ る。</p> <p>④学校全体で組織的・計画的に展開し、オリン ピック・パラリンピック教育を推進する。</p>	<p>① 田無工五輪（体育祭）、文化祭（田無工祭 ）は開催方法を工夫して実施できた。</p> <p>② 学校説明会等では、生徒会、部活動生徒に よる案内などの手伝いにより来校者から評 判が良かった。</p> <p>③ 測量部のものでつくりコンテスト関東大会出 場・自動車部エコラン全国大会出場や男子 バスケットボールとバドミントン（個人） は工業高校大会で優勝することができた。</p> <p>④ マラソン大会ではゲストランナーとして盲 人ランナー4組を招聘しTOKYO2020 レガシーとしてのオリパラ教育を推進した 。【B】</p>
経営企画室にお ける経営参画の推進	<p>① 学校経営計画の実現に向け、経営企画室の 業務の充実を一層図るとともに、迅速な対応を 行う。</p> <p>②自律経営推進予算は、計画的に執行し、セン ター執行割合の一層の向上を図る。</p> <p>③省エネ、経費削減に向けて取り組みつつ、教 育環境の充実を図る。</p>	<p>① 業務連絡を密にとりながら、学校経営実現 に向けて協力体制を構築した。</p> <p>② 計画的な物品購入によりセンター執行率を 向上させることが出来た。</p> <p>③ 常時換気を実施したことや、物価上昇のため 光熱費を抑える事が出来なかった【B】</p>
ライフワークバラ ンスの推進	<p>① 年間を通じて計画的な年休取得を推進する 。（10日以上年休取得）</p> <p>② 閉庁日を設け、職員の休養を図る。（年間5 日間）</p> <p>③ 週1回のノー残業デーを各自設定し、効率 の良い業務処理を目指す。</p>	<p>① 計画的な年休取得はほぼ全員の教員が実施 した。</p> <p>② 閉庁日は年間5日実施し、職員の休養を図 った。</p> <p>③ 校務の関係から週1回のノー残業デーの設 定が出来ず、各自の努力目標としたが、新 システム導入等、業務が増大したため浸透 には至らなかった。【C】</p>

A：大きな成果が得られた B：昨年度より前進した C：昨年度並み D：取組や成果に課題が残る

(2) 重点目標への取組と自己評価【C】

- ① 一般入試倍率については今年度1.0倍以上を数値目標に取組を進めたが、結果は0.58倍であつた。3次募集まで実施したが最終的に3学科ともに定員を満たすことが出来なかった。今年度はNext Kogyo START Projectの施策の推進として東京未来ファクトリーおよびPRワークショップへの生徒参加の他、東京都デジタルサービス局によるキングサーモンプロジェクトへの実証実験参加協力、西東京市連携のヘルメットバットスタンドプロジェクト、MUFG Parkへのインフラツール作成プロジェクト等、次世代の人材育成を目指す工業高校の取組を広く世間にアピールすることに重点をおいた活動を行った。また学校見学会や説明会、部活動体験等、従来から実施している学校広報活動も幅広く展開したが、目標達成に至らなかった。都立工業高校全体で昨年度より応募倍率が低下しており、中学生や保護者の進学志向が強まっている中で、工業高校の魅力アピールにこれまでとは異なるアプローチも必要な状況となっている。
- ② 中途退学の減少については学力向上研究校の指定を受け、学力不振による退学者を0名にする取り組みを進めた。結果として学力不振による退学者は発生しなかったが、主に2学年の転学者が例年よりも多かった。学習意欲が不足している生徒が工業科目の学習課題に粘り強く取り組むことができない傾向が見られ、キャリア教育も含め個に応じた指導が一層求められる状況となっている。

3 次年度以降の課題と対応策

- (1) 学習指導の充実と学力向上については、日常の学習支援が必要な生徒の増加傾向がつついていするため、学力向上研究校の取組とともに、全ての教科での補習の充実や学び直し対策を行う。具体的には担任と教科担当が情報を共有し、補講など、学習の不足を補うなどの活動を展開する。学力向上については、基礎学力テストの結果や学力・技能スタンダードを活用する。また生徒一人1台端末を活用できるよう、オンライン学習教材の活用に取り組む。また学習指導要領の改訂に伴う観点別評価の実施に際し、指導と評価の一体化を推進する。
- (2) 生活指導については、日頃より頭髪・服装指導などを徹底し授業規律の乱れの防止を図る。具体的には、朝の立ち番指導や授業規律週間は次年度も継続し組織的な対応を行う。日常的な生活指導について、教員間の温度差を解消できるよう生活指導部と教科・学年の共通認識を図り、組織的な指導体制を構築する。SNSに関連した問題行動に関しては未然防止としてHR等を利用し日常的な注意喚起を行う。
- (3) 進路指導の充実とキャリア教育、デュアルシステムの推進については、進路指導部の教員を中心に学級担任や工業各科の全教職員の協力体制で取り組んでいく。進学希望者は、増加傾向にあるが進学後の状況を踏まえ本人・保護者にも丁寧な説明を行い、意思決定後の変更が無いようにする。

キャリア教育は来年度もデュアルシステムを中心とした計画を行うが、参加希望者・受け入れ企業の増加に加えて、新型コロナウイルス感染症対応等により長期就業訓練派遣関係業務が増大し、制度の改善と実施体制を整備していく必要がある。次年度も長期就業訓練への延べ参加者の割合を第Ⅰ期、第Ⅱ期合計で70%に設定し、協力企業と連携を強化し推進していく。
- (4) 健康・安全と特別支援教育の推進については、毎週水曜日に年間38回のSC相談を実施した。相談件数は、生徒28件、保護者0件、教員136件 計169件であった。今年度も保健相談部、SCと学級担任は円滑な連携が取れ、学校側の情報の共通認識の形成や組織的な対応もできた。次年度もSCとの全員面接の実施などを有効に活用し、学校と家庭との連携を強化し、保健相談部、学年などによる情報交換会や担当者会議の活性化を図り、学習支援の体制をさらに強化していく。
- (5) 広報活動の充実については、中学校教員や保護者への募集対策を工夫し、応募倍率の回復に努める。募集対策は、来年度もHPやSNSを通じて学校生活の様子を積極的に発信する。また、学校見学会、学校説明会、出前授業、ものづく教室、中学校訪問、出張学校説明会などの他、ミニ見学会は継続実施する。また部活動公開日や中学校教員向け説明の新規事業を追加し、本校の良さをアピールしていく。また、専門学科に対する理解の促進を図る必要があることから、Next Kogyo START Project の取組に基づく、先端技術を利用した教育活動、課題解決型学習の充実、地域連携の強化に取り組む。また、スクールミッションの設定や教育課程の改定に伴い、学校パンフレットは全面改訂し本校のイメージをさらに高める